地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（積丹地域）

●循環型藻場造成「積丹方式」によるウニ増殖サイクルとブルーカーボンの推進（継続事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け

【地域の将来像】
藻場造成（ブルーカーボン）の推進・拡大、「ゼロカーボン北海道」推進への寄与、「環境保護」と「地域貢献」の好循環の構築

【主な取組】
循環型藻場造成「積丹方式」によるウニ増殖サイクルとブルーカーボンの推進

取組場所

第３種美国漁港周辺海域
第４種余別漁港周辺海域

取組内容に関連する実施の現状と課題

・現状：餌料（コンブ）環境の悪化（磯焼け）、高海水温化によりウニの身入りが悪く漁獲量が減少、６月～８月の漁期のうち、操業日数は毎年３０日程度
・課題：磯焼けへの対応、ウニ殻肥料製造の整備・事業化、餌料用コンブ養殖の拡大、ウニの身入り・収穫量の向上、ブルーカーボンクレジットの認証

取組による効果（数値目標）

藻場造成面積 3ha 増加、ウニの生産量約 20t/年（R6：約 11t）、CO2 吸収量 10t/年

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制

【実施体制】「水産多面的機能発揮対策事業」２地域協議会（美国・美しい海づくり協議会・余別・海 HUG くみたい）、積丹町、東しゃこたん漁業協同組合、積丹地域マリンビジョン協議会、北海道積丹町におけるブルーカーボン創出プロジェクト協議会、民間企業

① ・養殖ロープ：ウニ殻使用した養殖ロープと通常のロープで養殖施設を設置　→　ホソメコンブ増産
　・施肥ブロック：細かく砕いたウニ殻を天然ゴムでブロック状に固め海中へ設置　→　藻場造成
② ウニの餌料の安定供給、ウニ生産量の増大
③ ウニを採捕し、身は出荷のうえ、ウニ殻を確保する。

※①～③のサイクル

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価

【数値目標】
・藻場造成面積　令和６年：1.5ha　　令和７年：1.5ha
・ウニの生産量　令和６年：約 11t　　令和７年：約 12t
・CO_2吸収量　　令和６年：5.5t-CO_2　　令和７年：10.6t-CO_2

【主な受賞歴（令和７年度）】
・「第６回ジャパン・サスティナブルシーフード・アワード」　リーダーシップ部門チャンピオン（主催：ＪＳＳＡ）

反省点

施肥ブロックを設置した西河地区は、ホソメコンブの胞子の密度が少ないため、ホソメコンブの着生が見られなかったと思われるので、今後、実施方法等を検討しながら継続実施していく。

（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点

漁協、漁業者、民間企業も含め地域一体となって、より効果をあげられるよう協議・検討していきたい

取組の実施に必要なもの

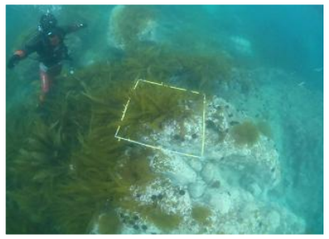
・作業する人員の確保
・Ｊブルークレジット申請用の調査、分析体制の強化

関連資料

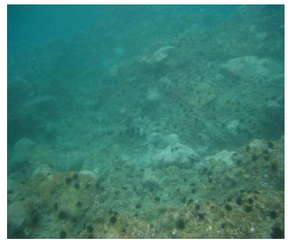
【取組の様子】
令和７年から民間企業が主になりウニ殻肥料を製造

漁師から収集したウニ殻

成形したウニ殻肥料

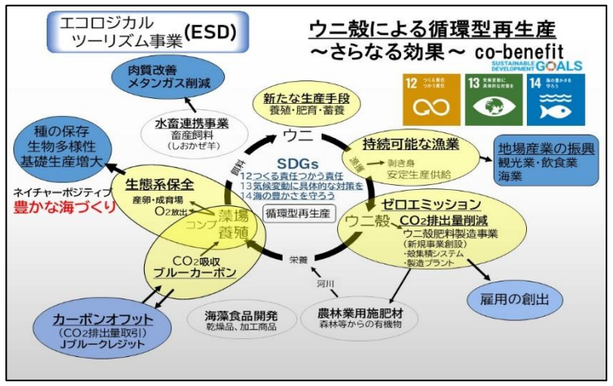


ウニ殻設置地区



対照区

・ウニと藻場の循環型サイクル



地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み（積丹地域）

●地域水産物の加工・物販・飲食、体験メニューの提供（新規事業）

（1）地域マリンビジョンにおける取組内容（Plan）

地域 MV における取組の位置付け

【地域の将来像】
官民連携による海業の振興、水産加工・物販・飲食・体験機能を備えた海業交流拠点の実現、漁港背後集落の伝統施設を活用した漁村の活性化

【主な取組】
地域水産物の加工・物販・飲食、体験メニューの提供等

取組場所

第３種美国漁港

取組内容に関連する実施の現状と課題

・現状：漁業者や観光業者等の担い手不足が深刻、観光客の滞在性が低く、飲食の収益力向上や多様な水産物の付加価値・商品化、自然体験型観光の創出、などによる漁村経済の好循環化が遅れている
・課題：地域水産物の付加価値化商品の生産と地域での消費、漁業者所得の減少、通年雇用体制への対応、滞在型観光への改善、「半島防災・強靭化」と「半島地方創生」

取組による効果（数値目標）

総売上高６億円、来場者数２０万人/年

（2）取組内容・実施体制（Do）

取組内容、方法、手順、実施体制

【実施体制】積丹町地域活性化協議会（構成：積丹地域マリンビジョン協議会）、サステナブルーコンソーシアム北海道（曲〆高橋水産株式会社ほか）、オブザーバー：北海道、北海道開発局、北海道大学、金融機関、地元関連企業等

上記の関係機関で令和７年７月に「積丹海業検討協議会」を立ち上げ、美国漁港を核として、水産加工・物販・食提供・体験機能を備えた海業交流拠点施設の形成を検討している。
（余別漁港では、中間蓄養や藻場造成支援、体験・教育機能を備えた海業拠点の形成を検討中）

検討協議会：年３回開催（７月、１２月、２月）
適宜ワーキングを開催

（3）効果項目に対する評価（Check）

数値目標の達成度評価

今年度から検討が開始したため、数値目標の達成度を表すことができないが、引き続き協議会として検討していく。

反省点

特にありません。

（4）取組の改善措置（Action）

取組内容の改善点

改善ではないが、海業交流施設の実現に向け、国や道、その他関係機関と連携しながら検討を続けていきたい。

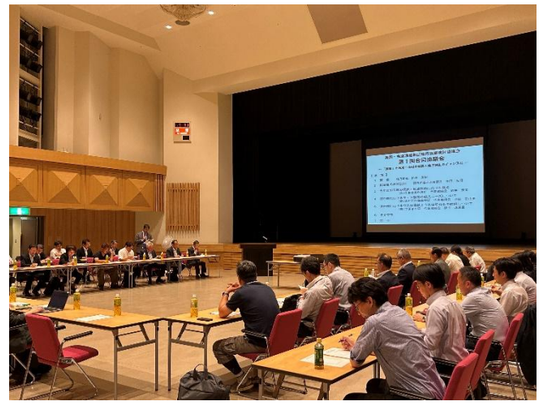
取組の実施に必要なもの

・海業検討協議会の更なる強化

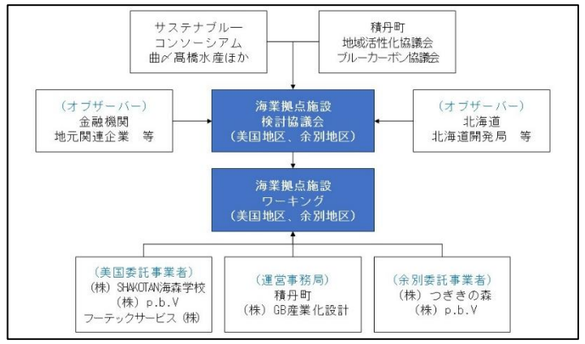
関連資料

【取組の様子】

令和７年７月１１日　第１回積丹海業検討協議会



検討体制



目指すビジョン